

2022年度事業報告



活動レポート

①福祉相談事業

困りごと相談(自主事業)

活動の想い

安心して暮らせる地域を作りたい！

直接の成果

悩みや困りごとを抱えた人が相談をする。

短期成果

必要な時に相談できる関係ができる。

長期成果

問題解決へ向け、自ら行動が起こせるようになる。

【担当責任者】 法人事務局として実施

【活動概要】

暮らしにかかわる相談を法人全体として相談者の気持ちに寄り添う傾聴を中心に実施する。必要により関係機関への紹介を行います。

【活動実績・得られた成果】

法人全体で行う困りごと相談業務としておこないました。フードバンク事業の支援者を中心に相談がありました。まずはお話を聴くという姿勢を持ち続けることの難しさを改めて実感しました。

困ったときに気軽に相談できる場や機会、日頃からの関係づくり。

②高齢者・障害者に対する地域生活支援サービス事業

タイムケア事業(自主事業)

直接の成果

スタッフが生活の援助を始める。

短期成果

生活の連続性が保たれたり、やりたいことができ始める。

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

【実施回数】 56回(176時間/年)

【活動概要】

介護保険対象者および障害福祉サービス対象者に対し、制度のルール等の理由で対応できない部分に柔軟に対応する事業です。

【活動実績・得られた成果】

介護保険対象者及び障害福祉サービス対象者に対し、制度のルールなどで対応できない部分に柔軟に対応しています。高齢者では主に介護保険では対象にならない大掃除や草取り、水やり、移動支援を中心に行いました。障害者ではホームヘルプなどの隙間を埋めるサービスとして実施しました。

分かち合い事業(自主事業)

直接の成果

住民スタッフが生活のお手伝いを始める。

短期成果

生活の中の困り事が改善し始める。

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

【実施回数】 0時間/年 0回

【活動概要】

介護以外のちょっとしたお手伝いについて、住民同士の助け合いで柔軟に対応する事業です。

【活動実績・得られた成果】

本年度は実績がありませんでした。コロナ過において本事業についての優先度が低く設定されているほかコーディネート機能と本事業に関わる人材の確保が十分にできていないことなど課題があります。

③相談ケアマネジメント事業

ゆめじろう居宅介護支援事業所

(介護保険居宅介護支援事業)

活動の想い

見慣れた風景や環境の中、その人らしい暮らしができることを応援していきたい

対象

町内在住(近隣町を含む)
高齢者と家族

直接(～1か月)の結果

生活や介護に関する困りごとや、暮らしにくさに対して、サービスの利用や暮らし方について相談できる。

短期(～3か月)の成果

問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関との関係づくりが始まる。

中期(～1年)の成果

問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関とつながっている。

長期(～3年)の成果

自分らしい生活が支援を受けながら継続し、ひとりではないと感じながら生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。



●居宅介護支援968人、予防379人、総合116人

【担当責任者】 西川百合

【活動概要】

介護を必要とする方が、自宅で適切に介護保険サービス利用ができるように、心身の状況や生活環境、本人・家族の希望に寄り添い、その人らしい生活ができるようにケアプランの作成やサービス調整を行います。暮らしにくさなどの相談の場合には、介護保険制度や他機関の案内や提案を行っています。

【2022年度活動目標】

事例検討やケアマネのつどいの参加継続により、引き続き介護支援専門員の資質向上に努めます。ひとりで抱え込まず、相談し合える職場環境を目指し、情報共有などを行っていきます。また、介護保険のみならず、他機関や他制度の理解を深めることで、適切な提案や助言が必要な人に必要な時に届くように努めていきます。

【活動内容・得られた成果】

10月より介護支援専門員(常勤)一名の入職により、特定事業所加算Ⅲの算定が可能となり、一件当たりの報酬アップができました。また、他市町を主に担当していることから手続きなどの情報提供を受け、スムーズな手続きにもつながりました。加算要件の中で、概ね一週間に1回の会議の開催では、それぞれの担当ケースの報告なども行い、対応について話し合う機会となり、より良い支援につながっています。会議の中では、研修参加で得た情報の共有もでき対応力のアップにもつながりました。また、年1回開催の他事業所との合同研修会開催についても、主体的に開催に尽力し、3月31日に他3事業所と研修会を開催し、資質の向上と情報共有する場をもつことができました。



「困った時の、ゆめじろう」つながることで、安心した暮らしを応援します。

ゆめじろう相談支援事業所



令和4年1月、知多南部基幹相談支援センターが設置されました。

(障害者総合支援法)知多南部相談支援センター(委託⇒基幹)、一般相談支援事業、特定相談支援事業、(児童福祉法)障害児相談支援事業

R4.1~

活動の想い

障害のある人と家族が安心して暮らせる社会や地域を作りたい！

対象

武豊町・美浜町・南知多町
在住の障害者と家族

活動内容

障害児・者の生活・サービスに関する相談援助。
協議会の運営。

直接の結果(～1か月)

相談を行い、必要な情報が得られたり、サービス利用が始まる。

短期の成果(～3か月)

必要に応じ相談ができ、生活が安定しはじめる。

中期期の成果(～1年)

新たな課題が出てきても、相談することで安心できる。

長期(～3年)の成果

住民の障害理解が深まり、サービス以外の資源を活用しながら自分らしい生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



障害者差別解消法研修(知多南部自立支援協議会)

【利用人数】

相談実績:15,244件／年間(前年度18,069件)

サービス等利用計画延べ人数806人(前年度954人)

【担当責任者】 出口 晋

【活動概要】

武豊町・美浜町・南知多町に住む障害がある人の生活に関わる相談を3町から委託を受け行っているほか、地域自立支援協議会の事務局を行っています。また、福祉サービス利用のための計画作成も行っています。

【2022年度の目標】

基幹相談支援センターとして、南部3町の相談支援事業所への参入の働きかけや相談支援事業所への支援を行う一方で、ゆめじろう相談支援事業所としても相談支援専門員の確保と相談員のスキルアップを引き続き行っていく。

【活動実績・得られた成果】

昨年度1月より知多南部3町(南知多・美浜・武豊)より受託している基幹相談センターの本格的スタートの年度となりました。これまでも基幹的な役割の一部を担ってきていましたが、新たに南部3町での相談支援事業所連絡会を立ち上げ隔月で情報交換や相談技術の向上へ向けての取り組みをはじめました。一方で、地域の相談支援専門員の数が絶対的に不足している状況は続いており、相談支援専門員の確保が当センターだけでなく地域全体の課題となっています。当事業所においても昨年度より相談支援専門員が減ったことで一人の受け持つケースが増え、これまで以上に相談業務が激務となりました。また、新規ケースも増加傾向にあり、基幹相談として断らずに対応を行いました。

事務局を務める知多南部自立支援協議会においては3町ごとの町部会とテーマごとの専門部会の他、新たに権利擁護に関する課題を検討する仕組みについて検討を行いました。一方で事務局業務が煩雑化する中で、協議会の実施へ向けた連絡調整に手間取ることもありました。そんな中でも、行政や地域の事業所とも関係性を築きながら相談業務を行うことができました。

④ホームヘルプ事業

ゆめじろう訪問介護事業所

(介護保険訪問介護事業、介護予防訪問介護事業)

活動の想い

住み慣れた町で暮らし続けることを応援したい！

対象

町内在住高齢者

活動内容

介護保険サービスとして高齢者の生活を支えるための訪問支援。

直接(～1ヶ月)の結果

ヘルパーが家庭に入り生活の援助を始める。新たな困りごとや課題が明らかになる。

短期(～3か月)の成果

ヘルパーの援助を受けながら生活をする。

中期(～1年)の成果

出来ることは自分で、できないことはヘルパーと一緒にしながら生活の質が向上する。

長期(～3年)の成果

自分らしい生活がヘルパーの援助を受けながら継続し、生きがいや目標が見つかる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

ヘルパー技術向上のため研修を行いました。



【担当責任者】 粉山敬子

【事業概要】

利用者さんの日常生活をお手伝いさせていただいています。住み慣れた自分の家(地域)で過ごしたいという利用者さんに寄り添い、生きていて良かったと思ってもらえる支援を心がけています。

【2022年度の目標】

新規受け入れを継続して行い、必要時、迅速な対応に努めます。質の高いサービスを提供できるよう、介護技術の向上、内部研修の充実と外部研修への積極的な参加体制を整えていきます。

【活動実績・得られた成果】

実績と収入については、昨年度から大きな変動なく、実施できました。入院や入所、亡くなった方もみえましたが、新規受け入れも継続して行えました。

通院介助のサービスを利用できない「要支援」の方からの依頼で通院同行や家族が遠方の為、入院中の洗濯を自費サービス(タイムケア)にて行いました。

身体介護のサービスを受ける利用者さんが増えてきました。ここ数年は、コロナ禍で介護技術の研修も中止になる年もありましたが、今年度は研修に参加する事ができました。

身体介護は技術も要する為、経験が少ない介護員も皆が不安なく、より良い支援ができるよう、介護ベッドを使用し実技で確認し合いました。今後も感染対策をしっかりとした上で介護技術の向上の為、定期的に練習を重ねていきたいです。

また、ヘルパー同士では「LINE WORKS」を活用した事で各々が瞬時に情報が伝えられるようになり、さらにコミュニケーションも取れるようになりました。



その人らしさに寄り添いながら 丁寧な介護！

ゆめじろう居宅介護等事業所

(障害者総合支援法居宅介護等事業)



その人らしい暮らしをマンツーマンで支えます！

活動の想い

障害のある人の社会参加や挑戦を寄り添って応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)
障害者

活動内容

自宅へヘルパーが訪問し、障害児・者の地域での生活を支えると同時に生活課題を明確にして課題解決のための支援を行う。

直接の結果

ヘルパーが家庭で生活の支援をしたり、社会参加支援を始める。

短期(～3か月)の成果

ヘルパーが家庭で、日々の生活支援に加え、課題解決のための支援を受け始める。

中期(～1年)の成果

継続した支援を受け続けていける。ヘルパーの支援を受けながら課題解決力・生活力が付く。

長期(～3年)の成果

自ら課題解決に向かっていく力が付く。また、必要とする支援を発信できるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

ヘルパーさんと春の気持ち良い日のウォーキング！

【根拠事業】居宅介護等事業、行動援護、移動支援

【担当責任者】 工藤美代子

【活動概要】

個人のニーズに合わせ、マンツーマン対応で障害のある方の日常生活・余暇活動を支援しています。

【2022年度活動目標】

移動支援事業の実績回復

令和2年度と比べると約10%増加していますが、新型コロナウイルスの感染拡大前と比較すると85%ほどの収入のため、積極的な利用の呼びかけを行っていく。

・支援の統一、共有

支援方法が細かい部分で支援者によって異なっていることもあるので情報の共有を行い、統一した質の高い支援を目指していく。

【活動内容・得られた成果】

2021年度より進めていた、町外の利用者さんが近隣の大学に通う際の学内での支援を実施しました。

他事業所と連携をとりながら、利用者さんの学生生活を支えることが出来ました。支援に関して利用者さんからも評価を頂いていましたが、支援者不足により3ヶ月で支援を終了させていただきました。コロナウィルスの規制の緩和により利用希望数が増えたこともあり、支援者不足という課題が改めて露わになりました。

2022年度より、こじろうと共同でコーディネートを組むようになりました。

これまで各々で調整したコーディネートを照らし合わせていましたが、こじろうの担当職員と共同で調整するようにしました。人員不足という課題はありますが、できるかぎりでのコーディネートの幅が広がりました。また、職員の勤務時間もより効率的に調整することが出来るようになりました。

⑤ デイサービス事業

ひるじろう (生活介護)

活動の想い

どんなに重い障害があっても、その人らしい自己実現ができる活動や居場所が必要だ！

対象

町内在住(近隣町を含む)の重度障害者

活動内容

重度障害者に対し、それぞれの能力や意向に応じた日中の活動と居場所の提供を行う。

直接の結果

送迎等の支援を受けながら自分のペースでひるじろうに通い、活動に参加する。家族以外の人とのかわりが始まる

短期(～3か月)の成果

活動に参加するうちに自分の強み弱みが分かってくる。得意な活動にはやりがいをもてるようになる。

中期(～1年)の成果

得意な活動に磨きをかけ、やりがいを持って取り組めるだけでなく、息抜きもできるようになる。

長期(～3年)の成果

やりがいをもって行える活動を共に行う仲間ができひるじろうが大切な居場所となる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。

コロナ禍で外出ができないため、お楽しみゲーム大会を行いました。



【利用定員】 10人 平均利用人数 7.3人/日

【担当責任者】 尾溝悠輔

【活動概要】

町内及び近隣障害者に対し日中のつどいの場・活動・仕事を提供し、自立と社会参加と自己実現を支援する。

【2022年度活動目標】

利用者の増員：65歳を迎えて退所した利用者さんなど定員に空きが出来たので、利用者の増員を目指す。

新しい活動の創出：コロナ禍で外での活動や運動が激減し、室内中心の活動がメインになってきてしまっているため、町の体育館や図書館などを利用した外に出る機会を設けていく。

【活動内容・得られた成果】

利用者同士の相性が原因で活動へ満足に参加出来ていなかった方への活動を見直し、結果的にご本人が落ち着くことのできる環境で活動が出来るようになりました。

昨年度から導入したタブレットは、今年度も活動中や活動後に音楽や動画を流すことでモチベーションアップに活用が来ています。

お楽しみ会は今年度も3回実施し、室内でゲーム大会やデザート作りなどをして楽しんでもらいました。グループに分かれゲームをすることで、これまで見られなかった利用者さんの一面を見られたことは大きな発見でした。

昨年度に目標として挙げていた”利用者の増員”については、生活介護事業所の説明会を開催している団体を紹介していただき、参加させていただくことになりました。7月に開催予定のため職員と事業所の広報について考える時間が増えています。



自分らしく、H・E・J・O・I & ワーク ひるじろう！



ひるじろう (就労継続支援B型)

活動の想い

障害のある人の「仕事がしたい」「社会の役に立ちたい」という思いを応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)の仕事をしたたい障害者。仕事ができる可能性があるのに十分に力を発揮できていない障害者。

活動内容

障害者に対し、仕事を通じて社会参加・社会貢献をする場の提供を行うと共に、それに対し工賃を支払う。

直接の結果

ひるじろうへ通い、コロッケ作り・販売、整備事業など自分に合った仕事に取り組む。

短期(～3か月)の成果

ひるじろうに慣れ、仕事をしながらの生活リズムができる。

中期(～1年)の成果

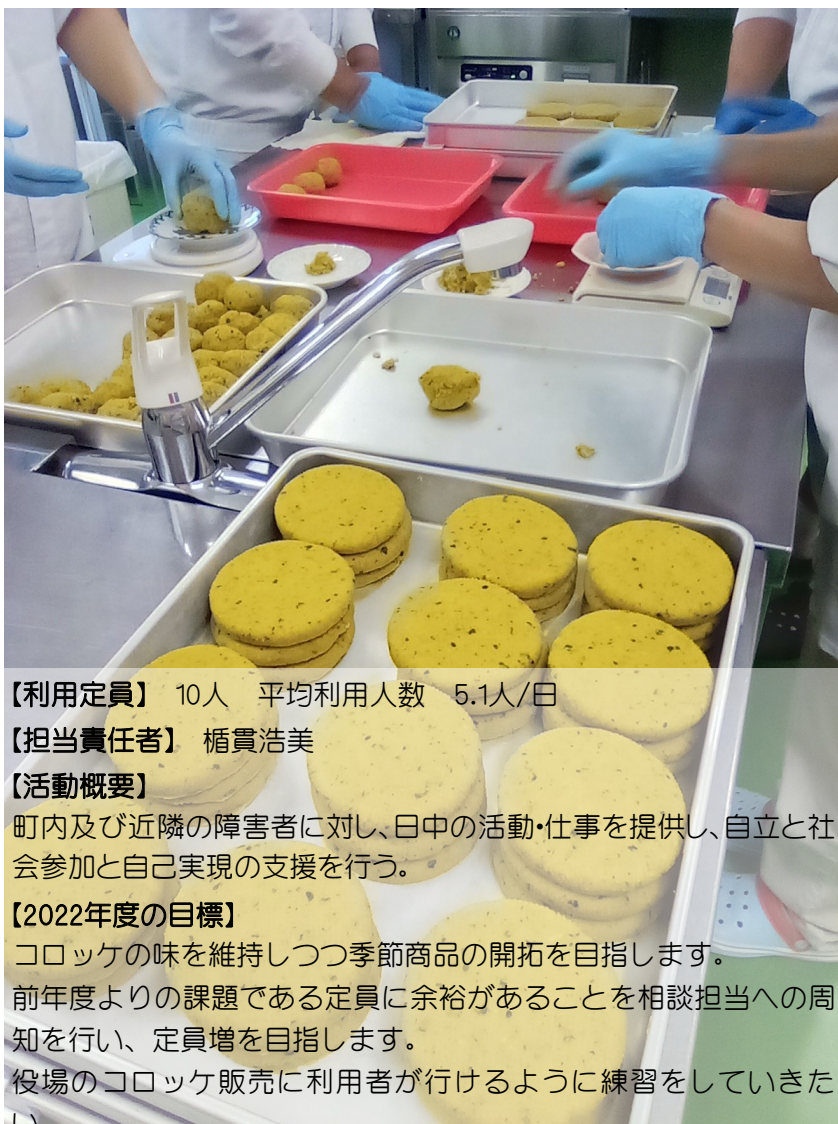
お金に関心が持てるようになる。目標工賃1万5千円/月の達成

長期(～3年)の成果

工賃だけでなく、仕事そのものにもやりがいや誇りが持てるようになる。目標工賃2万円/月の達成

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



【利用定員】 10人 平均利用人数 5.1人/日

【担当責任者】 楯貫浩美

【活動概要】

町内及び近隣の障害者に対し、日中の活動・仕事を提供し、自立と社会参加と自己実現の支援を行う。

【2022年度の目標】

コロッケの味を維持しつつ季節商品の開拓を目指します。

前年度よりの課題である定員に余裕があることを相談担当への周知を行い、定員増を目指します。

役場のコロッケ販売に利用者が行けるように練習をしていきたい。

【活動実績・得られた成果】

5名の利用者さんと整備活動コロッケ製造などを行っています。コロナ禍でイベント出店もほとんど無い中、また材料費が高騰する中、コロッケの10円の値上げを行いました。富貴駅と役場での週に2回の販売や整備事業等の売上は昨年と同等の売上がありました。また工賃については昨年度より多い金額を支払うことができました。利用者の方々の作業能力の向上により少ない人数でも大量のコロッケ製造が対応できるようになってきました。

こじろう

活動の想い

障害のある子どもたちの地域の中で健やかな成長と家族を応援したい！

対象

町内在住の障害児（家族）

活動内容

障害児の放課後と長期休暇の活動と居場所の提供。

直接の結果

子：場所、人に慣れ落ち着いて過ごすことができる。親：自分の時間が持てることにより余裕ができる。子：家とは違う側面を知る。

短期（～3か月）の成果

子：こじろうに行くことが楽しみになる。親：安心して送り出すことができるようになる。

中期（～1年）の成果

子：好き嫌いがはっきりして自分から活動を選択し参加できるようになる。親：スタッフと信頼関係ができる。

長期（～3年）の成果

集団で過ごし、社会経験を積み上げることにより必要なルールが身に付きよい人間関係が保てるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

【利用定員】 5名

【担当責任者】 榊原由起

【活動概要】 移動支援事業を活用し実施

障害のある子どもたちが放課後や長期休暇を安全に楽しく過ごすための場所です。子どもたちが主体的に活動できることを目標にしています。

【2022年度の目標】

ゆめじろう全体の事業継続も考慮し、引き続き移動支援事業を活用し、こじろうを利用いただいている方へのサービスを提供していきます。

【活動実績・得られた成果】

年間を通じて移動支援事業（個別・グループ）を活用して、利用者の皆さんに混乱を招くことが無いよう事業を継続しました。他の放課後等デイサービスと移動支援事業を利用しているこじろうを併用した人については、利用者負担が別々に請求されるため負担が2倍になる人も出てきました。また、それも呼び水となり、他の放課後等デイサービスへの移行が進みました。

⑥福祉移送ボランティア事業

【根拠事業】 自主事業 【担当責任者】 山本浩人

【事業概要】 緊急的に必要または、やむを得ない場合の車による移送。

【事業実績】

緊急やむを得ない場合において法人判断で無償で実施しました。

⑦次世代育成事業（子育て支援事業）

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 瀧本智恵美

【事業概要】 託児等を会員同士の助け合いで実施する。

【事業実績】

新たに始まった、たけとよ子育てつながるサロンに定期的に出席し情報交換を行いました。

⑧高齢者障害者に対する社会参加促進事業

喫茶「ゆめひろば」

直接の成果

町民がゆめひろばを利用し、食事やお茶を飲みながら話をする。

長期成果

町民会館に、食事をしたりお茶を飲みながら仲間との交流や出会いの場が確保される。

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 木村智子

【事業概要】

食の安全を意識した手作りの食事、飲み物を提供しています。また、住民の交流の場として快適な場所作りを大切にしています。

【2022年度の目標】

引き続きコロナウィルス感染症の状況を見極めつつ安全な運営に心がけます。

【活動実績・得られた成果】

コロナ禍でゆめたろうプラザでのイベントへの対応は、11月の文化祭でコロッケドッグを提供させて頂きました。また、食材費高騰のおりランチを550円から600円へ、ドリンクを300円から350円へ値上げさせて頂きました。その他、不足していたシェフについて11月より1名増員となりました。



じろちゃんコロッケとコラボのコロッケドッグ

就労継続支援B

P12を参照 ひるじろうの活動の中で紹介。

フリースペース事業

【事業概要】

事業所のいろいろなスペースを利用して、地域の方が立ち寄ったり、ボランティアとして参加いただいたりする事業を提供しています。「こんな事ができるといいなあ。」や「こんなことで困っている。」「このくらいの手伝いはできるわよ。」などの声を大切にいろいろな活動を少しずつ行っています。

ゆめじろう茶屋 自主事業

活動の想い

地域で孤立することがないように住民同士のつながりを大切にする居場所を作りたい！

対象
町民

活動内容

地域住民が気軽に集える場所と活動の提供をする。

直接の結果

地域住民が日常的に茶屋に集い活動に参加する。

短期の成果

茶屋に集う者同士の交流が生まれ、新たな関係ができる。

長期の成果

茶屋を活用して地域住民の支えあいの活動が展開される。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 小藤あけみ

【事業概要】

年齢・性別・国籍問わず気軽に参加しています。

情報交換や物々交換、新しいつながりなど「つどい・つながる」場所です。

【2022年度の目標】

コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動実績・得られた成果】

昨年度同様コロナウィルスの感染予防のため、感染リスクの高い高齢者の集まりさをりなどは中止となりました。

未実施

⑨地域福祉啓発・研修事業

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

高齢者福祉および障害者福祉にかかわらず地域福祉に関わる活動やイベント等を開催しています。毎年9月の第1土曜日に行っている夏祭り(平成28年度からは龍宮まつり)、日本福祉大学と協働で実施するサービスマーケティング、武豊町との協働事業で始まったきのこプロジェクト、フードバンクちたの他、ゆめじろうくん(着ぐるみ)やコロツケカーによる地域イベントへの参加など多岐に及びます。平成30年度は、武豊町提案型協働事業を活用し子どもの居場所を考える『たけのこプロジェクト』を行いました。

たけのこプロジェクト (武豊町提案型協働事業)

活動の想い

美味しい顔と時間を共有することで困ったときにSOSが出せたり助け合える関係と地域力を作りたい。

【根拠事業】 武豊町提案型協働事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

子どもから大人まで困ったことがあったときに、地域で解決ができるよう、一緒に美味しい顔と時間を共有することでSOSが出せたり助け合える関係づくりをする。

【2022年度の目標】

コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

コロナ禍において、当法人としては積極的な取り組みは行えませんでした。フードバンク活動において町内で行う学習支援団体への食品提供をする形で代替しました。

その一方で、町内で2ヶ所の子どもの食堂が始まりました。

活動内容

月に1回、地域住民が集まり一緒にカレーを食べる機会を作り美味しい顔と時間の共有をすることで

直接の結果

地域住民と一緒に食事することで顔がつながる。

短期の成果

顔がつながり名前も覚え、気軽に声掛けられる関係になる。

長期の成果

困ったときにSOSが出せたり、助け合える関係ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

未実施

ゆめじろうくん・コロッケカーの出動(自主事業)

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

啓発活動の一環としてキッチンカーの出動やゆめじろうくんがイベントに参加したりしています。

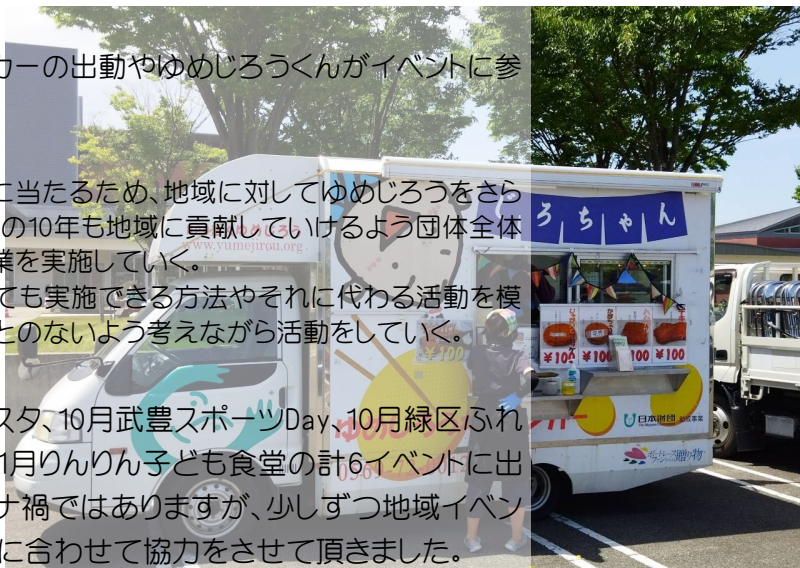
【2022年度の目標】

本年度はゆめじろう創立20周年に当たるため、地域に対してゆめじろうをさらに知ってもらうとともに、これからの10年も地域に貢献していけるよう団体全体のモチベーションを高められる事業を実施していく。

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

令和4年度は5月芝生広場フェスタ、10月武豊スポーツDay、10月緑区ふれあいフェスタ、11月わっぱ祭り、1月りんりん子ども食堂の計6イベントに出展協力させて頂きました。コロナ禍ではありますが、少しずつ地域イベントが開催されるようになりそれに合わせて協力をさせて頂きました。



ゆめたろうスマイルマラソン応援(自主事業)

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

平成25年度からは、「一緒に走ろう」という参加型の活動から転じ、「みんなで応援しよう」という町のイベントを地域住民と一緒に応援し盛り上げる活動を行っています。

【2022年度の目標】

本年度はゆめじろう創立20周年に当たるため、地域に対してゆめじろうをさらに知ってもらうとともに、これからの10年も地域に貢献していけるよう団体全体のモチベーションを高められる事業を実施していく。コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

本年度は、3年ぶりの開催となりました。コロナ禍での開催のため、沿道での声援活動は規制がありましたが、これまでの応援活動の実績が評価され、唯一の応援団として大会への協力が認められました。本当に久しぶりに開催されるマラソン大会にランナーたちも楽しそうでした。



フードバンクプロジェクト（自主事業）



【根拠事業】自主事業

【担当責任者】地域啓発委員会

【事業概要】

セカンドハーベスト名古屋、サポートちた、日本福祉大学、常滑市社会福祉協議会と協力し、大規模ショッピングセンターや食品会社などからまだ食べられるのに捨てられてしまう食品をもらい受け、生活困窮者など必要としている人たちに届ける活動です。

【2022年度の目標】

コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【事業内容・得られた成果】

感染予防策を取ることで、大きな影響を受けることなく実施ができました。また、地域の子供会や子育て支援活動の方々に対して、おかしやおもちゃの提供もできました。

そして、今年度についても分配しても更に残ってしまった食品を、団体内で協力購買することで今年もフードバンク活動を中心に動かしているセカンドハーベスト名古屋様へ10万円の寄付を行うことができました。この他にもカーブス様からフードドライブで集まった食品の提供を頂き、必要な方へ分配をさせて頂きました。

サービスラーニング（日本福祉大学との協働事業）

【根拠事業】日本福祉大学との協働事業

【担当責任者】出口 晋（R5ひるじろう）

【事業概要】

地域福祉サポートちたを通じて実施する日本福祉大学との協働事業。「フィールド実践演習」という科目の中で実施され、NPO法人の活動を通して実習することで、学生の「市民性」を育み、自らの意思をもって関わっていく力を養っていくことを目的にしています。

【2022年度の目標】

コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【事業内容・得られた成果】

コロナ禍ではありましたが、本年度も2名の学生の受け入れを行いました。積極的にひるじろうの利用者さん達と活動しつつ、どのような活動であれば利用者さん達と一緒に楽しめるレクリエーションとなるか悩みながら取り組んでいただき、利用者の皆さんにも大好評でした。スタッフも多くの気づきを得ることができました。



きのこプロジェクト（武豊町提案型協働事業自主事業）

【根拠事業】 自主事業（前：提案型協働事業）

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

自然公園一帯の活性化活動

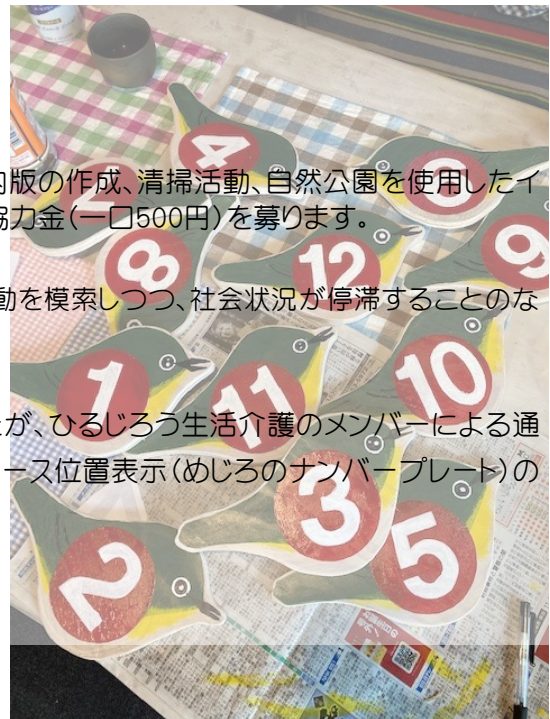
自然公園パトロール（重度障害者による）、マップ・案内版の作成、清掃活動、自然公園を使用したイベントを行う活動です。実施にあたっては町民からの協力金（一口500円）を募ります。

【2022年度の目標】

コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

コロナ禍においてイベントの開催はできませんでしたが、ひるじろう生活介護のメンバーによる通年のパトロール活動と老朽化して古くなった園内のコース位置表示（めじろのナンバープレート）の付け替えを行いました。



龍宮まつり

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

盆踊りや運動会など地域のイベントが少なくなってきた富貴地区において地域の人々が参加しつながら合えるお祭りの開催。

【2022年度の目標】

コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

今年度もコロナウィルス感染症が収束を見せない中、実施及び地域関係者との協議の場も持つことができませんでした。

未実施

ゆめにてい

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】西川百合

【事業概要】

昨今地域力の低下と言われる中、ゆめじろうが地域の中で果たす役割について話し合っています。プロジェクトとして始動する前には「困った人発見隊」という名で活動してきました。ゆめじろうを知ってもらい、困った時に相談できる場所や人とのつながりがあることで、少しでも安心して生活ができるのではないかと考え、手始めとして「市」を開くことにしました。

【2022年度の目標】

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

昨年に引き続き本年度も実施することはできませんでした。

未実施

⑩短期介護事業（ショートステイ）事業

【根拠事業】自主事業・地域生活支援拠点（体験的宿泊・緊急一時的宿泊）

【担当責任者】尾溝悠輔

【事業概要】

本人及び家族の緊急時の宿泊支援及び将来へ向けての宿泊体験の場と機会の提供を行う。

【2022年度の目標】

体験宿泊について、レスパイト目的での利用ができない現状の中、重度の方を十分に支えるショートステイも武豊町にないため、基幹相談支援センター、ひるじろう（生活介護・就労継続B）、サンワコーポ（GH）、地域生活支援センター（居宅介護等事業）と連携し地域生活支援拠点として、計画的に実施していく。

【活動内容・得られた成果】

今年度は、7月から8月にかけての1ヶ月間と、11月に約1週間、2月から3月にかけて2週間など長期の支援がありました。いずれも、主介護者の死亡または病気による入院治療のためで、その都度基幹相談より役場福祉課へ連絡を入る一方で事業所内で支援体制の検討調整を行い対応を行いました。支援体制のコーディネートにあたっては法人スタッフのほぼ全員が参加するLINE WORKSで瞬時に情報発信し回答を得ることで短時間での調整を行うことができました。

それ以外にも、家族の用事や主介護者のコロナワクチン接種の副反応期間中の対応、将来へ向けての自宅以外での宿泊体験などの目的での利用もありました。

⑪障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

居住サポートいえじろう(共同生活援助)



緑区民として生活しています。ますます地域の中での認知度も上がってきています。

活動の想い

障害のある人の親から離れて暮らす挑戦を応援したい！

対象

町内在住の障害者

活動内容

障害者のための家庭的で社会とのつながりのある住まいの提供。

直接の結果

グループホームでの生活を始めるとともに地域行事への参加、ボランティアの方との交流に参加し始める。

短期(～3か月)の成果

グループホームでの生活に慣れ、地域の方やボランティアの方との交流にも慣れる。

中期(～1年)の成果

グループホームを利用する日が増え、ボランティアの方と一緒に過ごすことができる。

長期(～3年)の成果

安定した生活をグループホームで送る。地域の方に存在を知ってもらう。ボランティアの方と一緒に外出ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

ホーム利用者さんで初詣にでかけました。



【根拠事業】共同生活援助 定員8人

【担当責任者】 山本浩人

【活動概要】

利用者さんが「ただいま」と安心して帰宅できるお家です。障害のある方が地域の中で自分らしく生活が送られるようサポートしています。

【2022年度の目標と成果】

- ・毎日の業務の中で、感染予防を怠らない
- 達成。毎日の消毒作業・検温の他、他事業所からの情報を受けたら人が集まらないようにするなど、感染予防対策を徹底。結果的に感染者を出すことはありませんでした。
- ・日々の生活の中でアセスメントを行い、随時必要な支援を変更・追加する。
- 概ね達成。今後も継続して行います。
- ・スタッフのスキルアップのため、研修への参加や部署内での自主学習会の開催
- 未達成。外部研修への参加は、来ていないスタッフの方が多い結果となりました。自主学習会も開催することが出来ませんでした。忙しい中でも積極的に各自がスキルアップを目指すことが必要ですので、今後の課題です。

【その他】

- ・利用者数が定員8名に対して、11月より7名となっています。その分が人数・収入とも予定数字に届かない結果となりました。ただし、何とか黒字とはなっています。
- ・緑区サロンへのボランティア参加や、緑区ふれあいフェスタへの参加(コロッケカー出店)など、緑区の中での認知度は確実にアップ出来ています。